



さくら

題字 足立区長 近藤 やい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会 長 中 田 貢 弘
編 集 広 報 部 会
発 行 日 2009年7月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5111

目 次

こころの健康フェスティバル	2
都福祉保健局・民生児童委員連絡会	3
子 育 て 応 援 団	4
介護・専門部会の取り組み	5
介護・シングル介護	6
介護・エンディングノート	7
自 主 研 修 会	8
編 集 後 記	



東伊興小3年 古橋美々里 作

地域力の復活



科学の発展により、世の中は
とても便利になりました。

しかし、社会状況の変化が大
きな要因かもしれませんが、人
間の心はどうも逆行しているよ

うに感じられます。

また、子ども達を取り巻く環境は、日々激しく変
化しており、それは決して良い方向に向かっている
とは思えないように感じます。

いじめ、不登校、社会性・公共心の低下等、目を
覆いたくなるような事件也多発しています。

また、大人の社会でもいろいろな問題が発生して
います。

目的のためには手段を選ばない風潮が広まり、規

市村 智 教育委員・9地区民生委員

範意識の無さから起こる事件が、新聞、テレビ等
でも連日のように取りざたされています。

こんな状況の中、これからの将来、どんな状況の
中でも逞しく生き抜いていく子ども達をどう育てて
いくのが、私たちが真剣に取り組む課題であると
考えます。

教育の原点は家庭にあります。ですが、親の教育
力の弱体化が言われ続けている中、子ども達を健全
に育むには、家庭と地域との連携がとても重要であ
り、地域力の復活が不可欠な時だと思えます。

地域の相談役であります民生委員の皆様方には、
これまで以上に地域福祉活動はもとより、子ども支
援にご尽力いただけますようよろしくお願いいたします。

こころの健康フェスティバル

heart to heart 〜ふれあう よりそう ささえあう〜

3月7日、足立区主催による「こころの健康フェスティバル」が行われました。例年通り、私たち民生・児童委員協議会も後援としてバザー実行委員を選出し、バザー運営と販売を行いました。

今年の売り上げは458,651円でした。これは次年度のフェスティバル運営資金へ寄付しました。

庁舎ホールでは「本当は怖い『うつ』に克つために」と題して、講師、東京女子医科大学神経精神科教授、坂本薫先生の講演が開かれました。うつ病の中にはアル中、そううつ症、統合失調症などを抱える方が多いと言われています。

うつ病で、みられやすい症状は、気分の低下・もの悲しい・気分が沈む・落ち着きがない・劣等感に悩む・意欲の低下・考えがまとまらない・生命力の低

下・睡眠障害・食欲不振・体重減少・疲れやすい等々があります。

うつ病の引き金については、①結婚・出産 ②職場の雰囲気 ③管理職・上司の無理解など。うつ病には自殺につながる危険があり、その要因として、職場のいじめが多くみられます。



うつにならないための七つのストップ

- ①完全主義をやめる
- ②自分のミスに厳しすぎるのをやめる
- ③すべてコントロールしようとするのをやめる
- ④余計なかわりを持つのをやめる
- ⑤自分の体調や健康を無視するのをやめる
- ⑥見栄をはって助けを求めないのをやめる
- ⑦ストップして自分や家族のために時間をとる

ところどころに先生の体験談をまじえ、笑いありのとても楽しい講演でした。

(5地区 杉浦幸子 記)

生活福祉資金研修会 その1



1月27日、なかの zero 大ホールにて、東京都社会福祉協議会主催による、平成20年度民生委員・児童委員生活福祉資金研修会がありました。

福祉事務所を通しての一般的な「生活保護制度」とは根本的に違う「生活福祉資金貸付制度」について学びました。戦後、当時の低所得世帯への経済的援助として発足し、年月とともに制度の充実改善をはかる「福祉の貸付制度」とされています。

近年の「格差社会」「低所得世帯の増大」「多重債務者の増加」などの状況下

では、セーフティネットの役割を担っています。また、在宅福祉のひとつとしても、高齢者・障がい者世帯の生活の自立や安定への支援として、今日的には「離職者支援」「生活困難家庭支援」など、社会変化の現状とともに生じる多様なニーズに対応していくものです。

この「生活福祉資金貸付制度」については、今後利用増加の見込みも大きく、現在被保護世帯を抱える委員も、その制度について再認識しました。

(6地区 森春枝 記)

愛称 包 you (フォーユー) と呼ばれている足立区地域包括支援センターを知ろう

最近の景気低迷は企業ばかりでなく、高齢者も困っている様子です。年金受領日などで人が集まると、あそこのスーパー〇〇が安い等、生活主体の話題が多いそうです。

支援センターの業務に「あんしんネットワーク」があり、独居老人や高齢者世帯等の介護に携わる家族が抱える問題を早期に発見し、適切な対応をすることで高齢者が安心して暮らせるまちづくりを

しようとしています。私たち民生・児童委員も積極的に協力していきたいものです。

近頃、センターでは数カ所共催の講演会が開催されるようになりました。生活に関わりのある地上デジタル放送、介護認定調査等話題性のあるお話があり、大変参考になります。

(江南・新田地区 楠美順二 記)





瀬田敬一郎会長

このたび、春の褒章に於きまして藍綬褒章を受章いたしました。身に余る光栄と感謝しております。これも関係皆様方のご指導と、暖かいご厚情の賜とっております。

5月19日に四ツ谷のホテルニューオータニにて褒章と章記の伝達を受け、午後3時に皇居豊明殿にて天皇陛下拝謁の栄を賜りました。昭和57年に民生・児童委員の委嘱を受け、

その日からめまぐるしく移り変わる社会に身をおき、民生委員信条にのっとり、隣人愛をもって福祉を取り巻く諸問題にいち早く取り組むべく、日々努力と研鑽を重ねてまいりました。本日まで無事に勤めることができましたことを心から感謝いたしております。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

本当にありがとうございました。

福祉保健局・民生児童委員連絡会 ～健康で自分らしく暮らせる地域社会に向けて～



4月28日
文京シビックホール

東京都全域の民生・児童委員、足立区からは中田会長を始め93名が参加して開催されました。

第一部

主催者を代表して東京都山口副知事の挨拶。続いて、川尻東京都民生・児童委員連合会会長より、都民福祉の向上に努め、孤独死に対する予防、地域の一層の活動を希望するとともに、都民連においても委員会を設置し取り組むこととするのお話がありました。

第二部

高齢者の見守りネットワークについて
～「高齢者孤独死防止」の取り組みを中心に～
コーディネーター

河合克義明治学院大学教授
パネリスト

生沼通男日野市民生・児童委員協議会会長
高野亮新宿区福祉部高齢者サービス課主査

事例研究等の発表

河合克義氏基調講演

高齢者の生活と孤独・孤立問題

- ①孤独と孤立が最近特に注目されている。我が国においては90年代から核家族化がすすみ、同居率が低くなるとともに、家族関係も希薄になっている。前期高齢者においては、比較的社会参加があり、ある程度生活も安定しているが、後期高齢者においては、社会不参加、経済性の低下等により孤独と孤立に陥る傾向が大きい。
- ②親族、地域ネットワークの弱体化は地域格差の深刻化と共に影響が大きい。ふれあいの少なさの潜在化

が孤立を深めることになる。

- ③社会的孤立。緊急時の支援者、近所付き合いの希薄化など、諸々の要因が増えている。

〈生沼通男氏〉

日野市高齢者見守り支援ネットワークについて

日野市では「住み慣れた地域で支え合い、安心していきいきと暮らせるまち」を目標として、民児協主体に各々関係機関を交え、作戦本部を設置して支援体制を取っている。また、在宅介護支援センターごとに、個人の対応も行っている。

〈高野亮氏〉

高齢者の10人に3人が一人暮らし

新宿区の場合は、高齢化率は高くはないが、全年齢の一人暮らしが多い。区内には、団地が2カ所あり、その高齢化率55.3%、44.6%と高く、区内平均18.4%を上回る統計となっている。地域包括支援センター単位による意見交換により、見守り強化を計っている。

以上、それぞれに「孤独死」の問題は研究されています。各民事協、行政、関係機関等で社会的に孤立を防ぎ、地域社会で安心して暮らせる地域を目指す生活圏域の構築の充実は「孤独死、早期発見」に繋がる仕組みであり、全員の願いでもあります。

なお、足立区においては、高齢者見守りあんしんネットワークの取り組みとして、社会福祉協議会主導の「おはよう訪問事業」等に取り組んでいます。

(花畑地区 細井力造 記)



竹の塚小5年 保大夢 作

民生委員制度創設90周年記念事業スローガン

広げよう 地域に根ざした 思いやり

2月10日、東京都主催の若年者自立支援講習会が、東京芸術センター天空劇場で開催されました。参加者281名のうち都内の民生・児童委員163名、特に足立区からは、98名の参加がありました。

東京都青少年・治安対策本部参事・藤井秀之氏の開会の挨拶の後、明星大学教授・高塚雄介先生の講演がありました。昨年、東京都が行った、ひきこもりの実態調査の結果を踏まえてのお話でした。ひきこもりの外的・心理的原因や、その歴史、障害・疾病との関係をわかりやすく説明されました。

その後のセミナーは、高塚先生を司会に、大谷隆興葛飾区民生・児童委員協議会会長、ひきこもりセーフティネットあだち・織田鉄也氏、東京都多摩総合精神保健福祉センター・津田博紀氏をパネリストに行われました。大谷氏からは、家庭内暴力を伴うひきこもりの実例から「近所の人の支援の大切さ」を、織田氏か



らは「本人の目線になり、家族とのすれ違いを正し、次のステップに進むお手伝いができたら」、また、津田氏からは「自分を責めている家族の話聞き、癒してあげて欲しい」と各々の立場からお話がありました。

今、東京都には2万5000人のひきこもりがいてと推計されています。都の青少年・治安対策本部青少年課では、この調査を踏まえ、ひきこもりの家族向け小冊子を発行しています。ひきこもりの問題で悩んでいる方々への参考になるかと思っています。

(9地区 秋本雅信 記)

竹の塚地区 六月中 ふれあい いきいきサロン

六月中学校のボランティア部と先生方のご協力により民生委員が参加者（地域の高齢者）を募って開かれています。地域の高齢者がいきいきと暮らし、今まで



に培った経験や知恵を若い人達と交流しながら伝えて行きたい、そんな願いでサロンは続いています。1月は百人一首と茶道です。それぞれ4人1組にな

って、先生が上の句を読まれ、みんなが下の句を探します。生徒さんには勝てませんが、若い頃を思い出して元気が出ました。その後、開校以来ご指導されている「表千家」の奥畑有貴先生と、生徒さん達が和室にてお点前をしてくださいました。

高ぶった気持ちを静めて、皆さんに感謝しながら、一年の健康を一服に願いました。年4回ですが、中身の濃い一味違うサロンです。

(次回は、どら焼き作りとゲームです)

なお、六月地域包括支援センターの職員も興味を持たれ、お年寄りを連れて参加してくださいました。

(竹の塚地区 山下節子 記)

鹿浜小で合同避難訓練行われる！

11月23日、秋晴れの下、早朝から鹿浜小グラウンドで椿町会・鹿浜東町会合同の地域防災避難訓練が行われました。町会の役員、区役所、消防、交通、学校、民生委員、PTA、子ども達も喜んで参加し、総勢250名ほどでした。当日の訓練メニューは、119番通報や、消火器での初期消火活動、煙体験や起震車での地震体験と応急処置等、実際にモデルを使った訓練等、皆一生懸命でした。

災害時に使う備品の数々の展示説明で

は、アースイントイレの組立て実技も体験でき、「これだけ備品があれば安心だね」と言う声も聞かれました。

最後にアルファ米、けんちん汁の炊出しを全員で試食し、味の良さに驚きました。

貴重な訓練を身をもって体験し、日頃の防災意識の大切さを痛感させられた一日でした。

(鹿浜地区 江川せつ子 記)

保木間小3年
坂入リリア作



民生委員・児童委員宛

災害時一人も見逃さない運動

障がい者の支援取り組みの現状



私たちは「障がい者を支援し、ともに生きる」を部会のテーマとして活動しています。障がい者が、地域で自立した生活を送るということはどのようなことなのかについて考え理解してゆくことで、当事者と向かい合い、また繋がりをもち、相談支援体制・ネットワークの構築・サービス利用計画・権利擁護などの支援策や法の定めによる民生委員の役割やサポートが障がい者の生活を支えていく上で重要となります。しかしながら、障がいの程度や状況はその人に

よって様々であり、関わるのが難しいのも事実です。いま私たちができることとして、まず障がい者の情報の共有があります。そして日常としては声かけや挨拶を通してふれあいを強めたり、家族の会などとの交流で、何を望んでいるのかニーズを把握することが必要だと思います。作業所などの施設の訪問も重要な支援策です。現状は手探りの状態であって、地域社会の受け入れる体制づくりが急務となっています。

(障がい者福祉研究部会 江川勇部会長 記)

独居高齢者の支援取り組みの現状



私はじめ、皆さんが、迎えなければならぬ高齢化、その時の心の準備ができていくのでしょうか。安・近・短はレジャーによく使われる言葉ですが、自分自身について考えますと、安心して、身近な地域で、楽しく生活し、病は短くと望んでいます。

高齢者の方が、周りを見渡し気が付いたときには、いつのまにか独居高齢者になっていた、との話をよく耳にします。足立区の前期、後期高齢者人口132,000人と聞いています。平成19年2月、区と民生委員が協力し、災害時要援護者支援プラン名簿を作成しましたが、独居高齢者が区全体で何名なのか、大変申し訳ございませんが、把握していません。

メンバーの主な支援取り組みを記しました。

1. 定期的な訪問と電話により、信頼を得る努力
2. 孤独感からの解放、居場所づくりデイサービスの紹介、地域行事への参加要請
3. 近隣住民への見回り依頼
4. 要介護認定独居高齢者の場合、地域包括支援センターと連携、介護保険相談と申請手続き同行等
5. 訪問時、消費者被害への対応と助言

独居高齢者の方が困っていることは多々あり、部会としても目の行き届いた適切な支援ができず、常に自問自答しています。

皆様のご指導、ご助言をいただければ幸いに思います。

(高齢者福祉研究部会 下嶋良三部会長 記)

自立支援活動 中国帰国者とは その1

日本中が戦争へと突き進む1932(昭和7)年、政府は国策として中国東北部(旧満州)への移民を開始しました。本土の苦しい生活が続く中、多くの方が夢と希望を抱いて満州に渡り、開拓団として暮らしていました。

1945(昭和20)年8月9日、ソ連軍が参戦し、戦闘に巻き込まれたり、避難中の飢えや病気などにより多くの方が犠牲となりました。成人男性は関東軍の命令により「国境警備軍」を結成しソ連軍と戦ったため、おのずと老人や婦人、子どもが残されました。

満州の社会秩序は崩壊し、残された開拓団の避難と帰国は困難を極めました。この混乱の中で身寄りのなくなった日本人の幼児は現地の中国人の養子として(残留孤児)、日本人女性は中国人の妻(残留婦人)となって生き延びました。これらの方々を中国残留邦人といいます。

また、樺太においても約38万人の一般邦人や季節労働者が居留していました。日ソ開戦により樺太から北海道に緊急疎開しましたが、1945年8月23日、ソ連軍により緊急疎開が停止されました。その後、集団引揚げが行われたものの、様々な事情が障害となって樺太に残留したり、ソ連本土への移送を余儀なくされた方々を樺太残留邦人といいます。

これまで、日本に永住帰国した中国残留邦人は約6,400人(家族を含めた総数は、約20,500人)、樺太残留邦人は約80人(家族を含めた総数は約200人)になります。

永住帰国した残留邦人に、中国・樺太で婚姻した配偶者などを加えて「中国帰国者等」と呼びます。

現在、足立区には、約160世帯、約270人の中国帰国者等の方々が暮らしています。

(足立区福祉部自立支援課 記)

足立区は活動記録提出100%継続中です

あなたはご存知でしょうか？ 11月11日はなんの日か？ それは、介護の日です。厚生労働省が、平成20年に制定しました。さて、去る平成20年10月、NHKは「特報首都圏」で、「シングル介護」を報道しました。

そのシングル介護とは何か？ 若者達の非婚化、未婚化による独身を「シングル」と呼び、30歳代の未婚率は女性25%、男性39%になります。平成18年は、そのシングル達による介護、看護が急増して14万5000人位となり、その6分の1は親一人、子一人



伊興小3年 近藤榛乃 作

の家庭です。

事例① 独身息子と父親の家庭。息子は退職して父の介護、父の年金での生活。

事例② 独身息子とガンの病気の父と、寝たきり認知症の母の家庭。息子は昼間の派遣社員を退職。

深夜の仕事に就いて、介護と仕事の寝る間もない二重生活。

事例③ 独身息子と母親の家庭。母を見守る毎日で、再就職ができない状況での母親の年金による生活。

これら実態を見て、考えさせられたのは、父や母の死後、シングルの彼らは、生活収入のめどが立たないまま、40代、50代となり、その10年後の生活は、一体どうなるのだろうかと思ったことでした。

一方、NHKは、これらの要因は、日本社会の少子化が根本原因だといいます。現行、介護保険では、同居家族がいないと、ホームヘルパーの利用ができません。そして、介護保険は、要介護者側に立っていて、介護する側の息子、娘の問題について気がついていないため、シングル介護には不十分な支援体制といえます。彼らを孤立させないことや共同介護所の新設など、介護者に合わせた根本的見直しが必要と、結論づけしたのです。

なお、足立区でも、個別相談で対応する体制を敷いているとのこと。

(6地区 森春枝 記)

認知症シリーズ 認知症サポーターオレンジリング

認知症とは、脳がうまく働かなくなることです。本人は、記憶障害や認知障害から不安になり、周囲の人との関係も損なわれます。そして、家族も介護疲れに陥るのです。どうしたらいいのか？ 地域の支えが必要になってきます。そこで、平成17年に「認知症を知り、地域をつくる10ヵ年」のキャンペーンが始まりました。

「認知症サポーター100万人キャラバン」は、その一環です。認知症を正しく理解し、応援者として自分

のできることをする活動の場です。

「サポーター養成講座」を受講し、認知症の人を支援する意思表示のオレンジリングを受け取り、認知症サポーターとなります。

講座の対象は、各市町村在住・在勤・在学の市民で、自治体で養成された「キャラバン・メイト」が講師役を務めます。

(東綾瀬地区 河邊セツ 記)



さくらにゅーす 心の扉を開く魔法のカギ

私の住む町(扇南町会)では、あいさつ運動を行っています。始めたきっかけは扇小学校のフェンスに児童のあいさつ標語が掲示されてあったのと「寺地小学校だより」にも標語が掲載されており、それをヒントにして、町会役員会にはかり承認を得てスタートしました。人と接する第一歩は、あいさつを交わしてものごとが始まります。

「ありがとう こころあかるく うれしいな」「たの



しいな みんなあいさつ うれしいな」上記2編は小学校1年生の標語です。校長先生の了解を得てこのような標語60編を写真のように町内30カ所に設置しました。小学校の卒業式、入学式に校長先生が「あいさつは心の扉を開く魔法のカギ」ですとあいさつの大切さを話されました。町内にはスーパーが開店し、日暮里・舎人ライナーの駅ができ人の流れが大きく変化し、徐々に町の様子が変わってきました。それに伴い犯罪が増加することが考えられ、行き交う全ての人に声をかけ、犯罪抑止の一環として今回のあいさつ運動になりました(現に昼間公園で変質者が出没)。掲示してまだ2ヵ月位ですが、少しずつではあるものの浸透し、数年後にはあいさつができる犯罪のない安全で安心して住める町になることを期待しています。また、この運動が足立区全体に広まり区長が推進する犯罪のない足立区になればと願ってやみません。

(8地区 田中榮一 記)



エンディングノートという言葉をもっとよく耳にします。人生のエンディングを迎えるまでに、どう生きるかを自分なりに書き続けるノートです。これは質の高い介護を受ける手段のひとつとして自分から発信するものです。親子であってもどんな老後をおくりたいかは、わからないものです。精神的にも体力的にも弱くなりがちな老後に、元気に生きてゆく指

針であるといえます。充実した老後をおくり、他の世代から羨ましがられるシルバーエイジにしたいものです。

エンディングノートは、みなさんの老後をシルバーエイジからきっとゴールドエイジにしてくれるものであると思います。次回からエンディングノートを掘り下げてみたいと思います。

(10地区 川島恵美子 記)

歯なしのはなし

シリーズ第3回

戦後から日本の家庭の食卓にはカレーライスやハンバーグ、スパゲッティ等おいしくてやわらかい食べ物が並ぶようになりました。昭和30年代の前半にはテレビコマーシャルの影響でチョコレートやキャラメルなどのお菓子をたくさん食べるようになりました。そのため子どもの虫歯もピークを迎え、その後のスナック菓子時代の幕開けを誘因し、高齢者のみならず、一般的に噛む力が低下してきました。しっかりと自分の歯で食べ物を噛むことにより、脳内の血流を活発にさせ脳神経を刺激し、また、おしゃべりなどで口唇を運動させることで前頭葉にも刺激を与えます。高齢者には認知症を予防し、子どもにはその子の持っている能力を最大限に伸ばすことができます。噛む筋力を向上するために、毎日の食卓の中に1品は何回も噛まなければ飲み込めないおかずを取り入れるなどの工夫が必

要です。高齢になると唾液の流出量が減少し、筋力も低下し飲み込みが悪くなります。不幸にも病気によって起こる嚥下障害もありますが、あきらめずに機能回復を行うことが大切です。人はいずれこの世を去りますが、いつまでも自分の口から食べ物が食べられることはとても幸せなことだと思います。

(山田京子 歯科衛生士 記)



木村 徹也

新しく
お世話になります

福祉の仕事は新規採用で入区した千住福祉事務所の配属以来ですが、ご縁があって民生係に配属となりました。未熟者ではありますが、人と人とのつながりを大切にしながら精いっぱい取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

足立区第一中学校

八幡宮 階段かけて 願いごと

二年 木島由賀

湘南の海の方あなたに 水平線

二年 伊藤優輝

白かった公園からみた 富士の山

二年 中越美佳

鎌倉の歴史感じる 円覚寺

二年 斎藤穂波

朝比奈の険しい山道 文化遺産

二年 鶴澤瑠子

たくましく 大仏座る

二年 浅部雄哉

中学生俳句コーナー

常東地区自主研修会

平成21年4月17日、常東地区集会所（常東地区図書館）にて、社会福祉協議会に関する自主研修を開催しました。

当日は、特別に千住警察署より最近の高齢者による、交通事故の現状ならびに振込め詐欺、引ったくり等の説明と注意事項の話がありました。

千住福祉事務所太田所長の挨拶に続き、足立区社会福祉協議会根本事務局長並びに同協議会大場課長らにより社会福祉協議会の沿革について学び、事業概要の説明がありました。シルバーステッキ支給事業、おはよう訪問事業、車いすの貸出、遺児への見舞品贈呈（歳末）、区内社会福祉施設に対する助成、生活福祉資

金等の貸付の中には、生活福祉資金、離職者支援資金、長期生活支援資金、緊急小口資金、要保護世帯向け長期生活支援資金など多種多様の資金の貸付・支援等があることなど、わずか2時間あまりの研修会でしたが学ぶべき事柄がたくさんあり、大変勉強になりました。

（常東地区 井口保雄 記）



みんせいがわらばん

青色LED街灯の防犯効果

私の担当する地域でのユニークな安心まちづくりを紹介します。

つくばエクスプレス六町駅の開業により街が便利になった一方で、犯罪が増え、自転車泥棒のほか、深夜、家に侵入してお金を盗んだり、留守宅に入り込んで真新しいテレビやパソコンを盗むなどの犯罪が増えました。



町会では平成19年6月に防犯対策本部を設置。対策を話し合った結果、ネットからの情報によると青い光のライトが防犯に有効だという話を聞き、検討を始めたとのこと。

青色防犯灯の設置で一定の効果があがった先進地の奈良県に見学に行ったとの

こと。その効果としては「青色を見ると人は生理的に心が和むため、興奮状態から開放され犯罪に走りにくくなる」とのことで、町会は藁にもすがる思いで導入を決め、町内の25カ所の街路灯を青色LEDライトに替え、19年11月に点灯式を行いました。警察署の報告によると19年1月から11月までの住居侵入による窃盗事件は9件、青色LEDライト設置以降、20年12月まで0件。青色LEDライトが犯罪抑止に効果があるのか不明ですが「複合的な防犯対策による犯罪抑止」の必要性を認識することができました。

これは「地域住民の防犯意識」の高さが犯罪を抑止することになると思いました。このような実績の情報を得た行政からの見学やマスコミからの取材を数多く受けているとのこと。色の力に人間がいかに影響されやすいかがよく理解できました。

（17地区 石鍋昭男 記）

※六町3丁目町会長よりお話をうかがいました。

編集後記

足立区民生・児童委員発行の「さくら」も第20号を発行するまでに成長しました。毎月1回の会議で委員の方々の手際良い行動に感心させられました。20号までの道のりには、この度人事異動された近藤博昭（係長）さんの骨身を惜しまないご協力も大きかった

のではと思います。私たちも新しい出発をして皆様に親しまれる「さくら」を誕生させていきたいと思っています。

（鹿浜地区 江川せつ子 記）

訃報

第三合同・6地区 池田 恵美子殿

謹んでご冥福をお祈りいたします

小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、

第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。

■皆様の原稿を募集いたします（原稿は未発表のものに限ります）。次号発行予定日 11月1日

■原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。

広報部会

部会長

高野 季

副部会長

宮本 勝男

会 計

川島恵美子

編 集

細井 力造

森 春枝

校 正

田中 榮一

秋本 雅信

編集委員

池田 信江

渡邊 照美

楠 美順二

阿部 美代子

石鍋 昭男

山下 節子

北村 信也

校正委員

下田 尚保

大久保 義子

大城 忠男

清水 千鶴

河邊 セツ

井上 みよ子

薮下 奈穂美

江川 せつ子

北川 富美子

鈴木 重子